

英語教員養成課程の学生は 教科に関するどのような知識を学ぶ必要があると感じているか 学生の自己分析・振り返りアンケートの結果から*

西原貴之

はじめに

英語教員養成課程においては、学生は専門科目として「英語科の指導法」に関する科目（カリキュラム／シラバス、指導法、評価法、第2言語習得など）と「英語科に関する専門的事項」に関する科目（英語コミュニケーション、英語学、英語文学、異文化理解）を学ばなければならない。本来これら2タイプの科目間で重要度に違いはないはずであるが、近年では学生は「英語科の指導法」に関する知識をより重視し、「英語科に関する専門的事項」の知識に対する重要性の認識が弱まっているように感じられる。

このことを引き起こしている1つの要因として、教員養成課程の学生に大きなインパクトを与えると考えられる教育実習での経験が関係しているように思われる。現在の中高の英語教育では、言語活動を重視した英語授業が実施されており、例えば文法などは言語活動と関連づけて指導することが求められている。したがって、以前の教育実習とは違って「英語科に関する専門的事項」に関する科目で学ぶ知識を直接扱うような授業（典型的には英文法の規則を説明する授業など）を観察することはなくなってきており、まして学生自身がそのような授業を実施することもない。学生が教育実習で直接的に目にするのは、もっぱら「英語科の指導法」に関する事柄となっているように思われる。

しかしながら、教育実習後に次年度の教育実習に向けて実習校から寄せられる課題として、「指導法に関する知識に縛られすぎて、指導内容（英語）に関係する知識が不足している」点が毎年指摘されている。一見するとスムーズに授業を行っている教育実習生であっても、指導案作成時、授業内外での生徒からの質問への対応、授業後の反省会などで、実習校の教員は教育実習生の「英語科に関する専門的事項」に関する知識の不足を目にしているものと思われる。言語活動中心の授業を中高生にとって実りあるものにするには、その実践は英語に関する豊かな知識に裏打ちされている必要があるとの認識であろう。

本研究は、教員養成課程に在籍している学生が、中高の教員を目指す上でどのような知識を身につける必要があると感じているのか、著者の勤務校において2023年度の各学年の学生に自由記述で回答してもらった調査の結果報告である。これからの英語教員養成において英語学や英語文学などに関する知識が果たしていくべき役割について考えていくためのきっかけとしたい。

調査方法

2023年度に著者の勤務校の英語教員養成課程に在籍している1年生から4年生の全学年からデータを収集した。各調査の概要は以下の通りである。なお、調査①と②は「英語科に関する専門的事項」に特化して学生にたずねており、調査③～⑤はそのような制限は設けない形でたずねている。

- ・調査①：1年生22名が2023年6月に「大学4年間で英語科の指導内容に関して、どのような知識を身に付ける必要があると感じていますか」という問いに自由記述で回答
- ・調査②：4年生21名が2023年11月に「英語科の指導内容に関して、自分にとって課題と思われること、その課題を解決してさらなる向上を目指すために、今後取り組みたいことを具体的に記入してください」という問いに自由記述で回答
- ・調査③：2年生24名が教育実習観察後（1年後に控えた教育実習をイメージするために、実際に実習をしている先輩の様子を実習校へ見学にいった後）に「教育実習観察を通して、明確になったあなた自身の課題を具体的に挙げなさい」という問いに自由記述で回答
- ・調査④：3年生21名が教育実習事前指導後（教育実習の2か月半前に実習校で指導案の書き方や授業観察のポイントなどを学んだ後）に「本実習に向けて身につける必要があると思われる知識・技能および態度について述べなさい」という問いに自由記述で回答
- ・調査⑤：4年生21名が2024年1月（つまり、実際に教員として教壇に立つ2か月前）に教師となるための抱負、教師としての心構え、自分自身の教育観・授業観などについて自由記述で回答

調査結果の概要

調査結果は、著者の予想を裏付ける結果となった。具体的な調査結果は以下の通りである。

- ・調査①のデータに比べると調査②のデータでは、「英語科に関する専門的事項」への関心が大きく減少した。

- ・調査③と④での学生の自由記述では、「英語科に関する専門的事項」への言及が少なくなった。「英語科に関する専門的事項」への関心が小さくなったことの要因として、教育実習が関わっている可能性が示唆された。
- ・同様に、調査⑤においても「英語科に関する専門的事項」への言及が少なかった。
- 1年時には「英語科に関する専門的事項」に広く関心を持っていたのが（調査①）、教育実習中の授業観察などで直接的に目にした指導技術や学級経営、生徒指導の方に関心がシフトし（調査③、④）、卒業時には、英語科に関する専門的事項への関心が弱くなっている（調査②、⑤）可能性がある。

付録：調査で得られた自由記述の抜粋（調査①と②の括弧内の数字は回答した人数）

- ・調査①：【英語コミュニケーション】資格試験用の英語力 (3) / 語彙 (13) / コロケーション (2) / 母語話者が使う会話表現 (17) / 英語のことわざ (1) / 語の多義性 (3) / 語のコアイメージ (4) / 語の発音 (13) / コミュニケーション能力 (5) / コミュニケーションストラテジー (1) / 適切なあいづち (1) / 文体の違い (2) / 丁寧度の違いによる表現の違い (2) / 会話の型 (1) / リスニング力 (8) / 聞き取りやすい話し方 (5) / 読解力 (9) / 図や表から情報を読み取る力 (1) / ライティング力 (14) / SNS や eメールのライティング (7) / 要約力 (2) / プレゼンテーション能力 (2) / ディスカッション能力 (2) / 表現の違い (4) 和製英語のニュアンス (5) / 他教科の指導で必要になる英語（数表現、専門用語） (9) 【英語学】発音記号 (2) / 音変化 (11) / 細かな文法知識 (9) / 英文法の説明力 (16) / 英語の歴史 (19) / 言語学の専門的知識 (5) / 日英の言語構造の違い (3) / 英語の様々な変種 (1) / 現代社会における英語の位置づけ (3) 【英語文学】文学的表現 (9) / 英語文学作品に関する知識 (9) / 日本文学と英米文学の違い (1) / 英語学習に役立つ小説や映画に関する知識 (1) 【異文化理解】異文化の知識 (14) / 日本文化を英語で伝える力 (1) / 外国における遊び (1) / ジェスチャー (4) 【その他】学術的知識の統合 (1) / 日本人のつまづきポイント (4) / 長文問題の題材になるようなトピックや世界の動向などの一般知識 (6) / 授業で使える情報源についての知識 (1)
- ・調査②：【英語コミュニケーション】一般英語力 (12) / 生徒のレベルに応じた英語運用力 (7) / SNS の英語 (1) / 自然な英語 (1) / 正確な英語 (1) / 言語感覚 (1) 【英語学】文法・語法 (4) / 音声学に関わること (3) 【英語文学】英語文学作品に関する知識 (1) 【異文化理解】異文化コミュニケーションの実践の場 (1) / 文化の知識 (1) 【その他】専門知識を生徒のレベルに応じて説明・応用する力 (10) / 専門知識の深化 (7) / 概要を捉える力 (1) / 話題に関する知識 (1)
- ・調査③④⑤で得られた「英語科に関する専門的事項」への言及がない典型的な自由記述

基本的なことではあるが、英語を生徒に教える上での指導の技術や知識の不足である。授業後に行われた授業協議会において明確に感じた。例えば、“retelling”という英語の授業におけるアクティビティはよく行われるが、そもそも“retelling”とはどのような活動で何のためにやるのかと聞かれ、私は答えることができなかった。しかし先輩方は“retelling”とは話の内容を知らない人に話の概要や流れを自分の言葉で説明・表現することだと説明されていて、来年までにはここまで意識を高めておかなければならないと焦燥感を感じた。（調査③より）

- ・調査③④⑤で得られた「英語科に関する専門的事項」への言及（下線部）がある自由記述

教育実習を通して明確になった課題は、引き出しを増やすことである。英語の知識・技量は言うまでもないが、指導要領を覚えるくらい読んで、自分の知識として授業に活用できるようになりたい。Readingの活動1つとっても、人それぞれ違うアイデアを持っているため、模擬授業等でよい活動は自分に取り入れていきたい。指導要領への理解を深めることは、指導案のねらいや評価基準を定める時にもその引き出しを多く持てるということだと思う。また、引き出しを増やすという点においては、英語の歴史に関する雑学や世界の小説等、生徒が興味を持つような話題の引き出しや、生徒のフィードバックの言葉遣いの引き出しも増やしたので、本を読んだり英語や国際に関するニュース、新聞を定期的にチェックすることを意識して生活したい。（調査③より：言及は部分的で、「英語科に関する専門的事項」の知識を雑学として捉えている）

※自由記述の中で、「英語科に関する専門的事項」の知識を「英語に関する雑学的知識」と捉えた上でそれを「教養」という語で呼んでいた学生がいたことにちなみ、シンポジウム当日は、「英語科に関する専門的事項」の知識を「専門科目の中の教養的知識」、「英語科の指導法」の知識を「専門科目の中の専門的知識」と呼び発表を行った。また、紙面の都合で本稿では省略したが、他学部で英語教員免許を取得した学生の中には「英語科に関する専門的事項」を強く意識した教育観を持っている学生がいたことも紹介した（調査⑤）。